

「私の小さな通訳者達」

松下 恵

私は耳が不自由であり、2人の娘を持つ母親です。父親もまた耳が聞こえません。私達と子供達との日常生活での会話は手話を使ったコミュニケーションで成り立っています。

時折、子供達は手話を使わなければならない義務感でふびんな思いをさせているだろうかと思う事があります。

その気持ちをふき飛ばしてくれる出来事が今年の夏休みに星空ガイドツアーに行った時の事です。このツアーを申し込んだ時、最初はすぐに良い返事を頂けませんでした。なぜならこのツアーではガイドさんが真つ暗な道を歩きながら星の説明をするので耳が聞こえない方には話が伝わらないかも知れないからです。確かに私達は同時進行は難しいけれど子供達に経験させて星の事を知って欲しい気持ちをガイドさんに伝えた時、ずっとそばで聞いていた娘が突然私達の通訳が出来るから大丈夫と話してくれました。それを見たガイドさんは驚きながらも快く引き受けてくれました。娘の行動がガイドさんの気持ちを動かしてくれたと思います。こうして天の川が降り注ぐ道を歩きながらガイドさんの話を通訳する長女とライトで口を照らしてくれる次女と皆で星空を見る事が出来ました。ありがとう、私の小さな通訳者達。

気付いているかな。星の説明をしてくれた時からあなた達も星のガイドさんだよ。